

令和5年度 第2回

木の文化都市を継承・創出する金沢会議

令和6年2月29日

令和5年度 第2回 木の文化都市を継承・創出する金沢会議

日時：令和6年2月29日(木)午前 10時～

場所：金沢市 第1本庁舎 7階 第1委員会室

次第

1 開会

2 あいさつ

3 議題

- ・木の文化都市推進計画の進捗について
- ・令和6年度の事業・取組について

4 閉会

「木の文化都市を継承・創出する金沢会議」委員名簿

(50音順)

氏 名	職 名	備 考
岩本 歩弓	金沢桐工芸 岩本清商店	工芸
腰原 幹雄	東京大学 教授	建築構造
砂山 亜紀子	もりラバー林業女子会@石川 代表	森林・木材活用
西村 幸夫	國學院大學 教授	都市計画
福光 松太郎	金沢経済同友会 代表幹事	経済界
宮下 智裕	金沢工業大学 教授	建築構法
林野 紀子	石川県建築士会 金沢支部常議員	建築設計

推進アドバイザー

氏 名	職 名	備 考
長谷見 雄二	早稲田大学 名誉教授	建築防災
水野 一郎	谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館 館長	地域計画

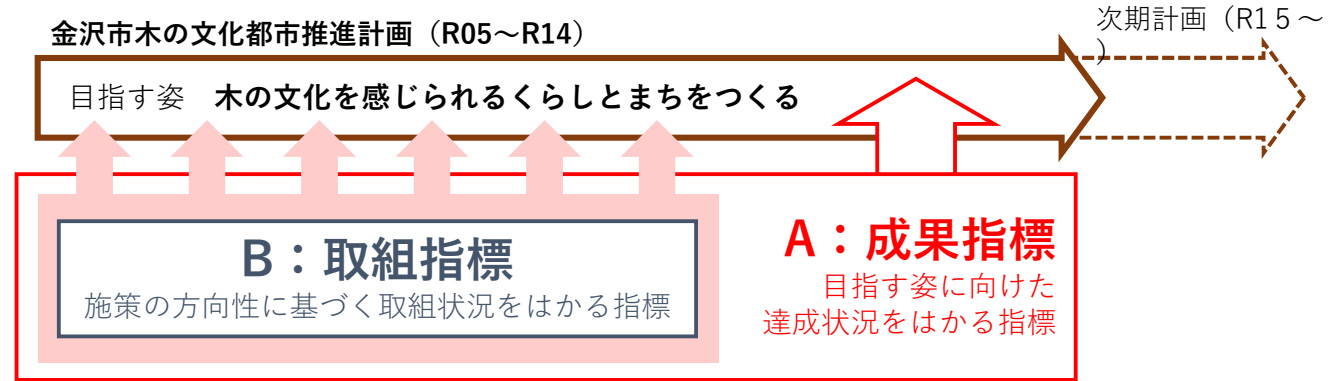
1. 木の文化都市推進計画の進捗状況について
2. 令和6年度事業について（木の文化都市関係事業）
3. 令和6年度の実施について（推進に向けた実施）

1. 木の文化都市推進計画の進捗状況について

<取組指標と成果指標の関係>

A成果指標とB取組指標
にて進捗管理

→今回は令和4年の計画開始時の数値について判明しているものを提示



<A:成果指標>

目指す姿		指標	計画策定時	現況値	目標値
木の文化を感じられるくらしとまちをつくる	→	木材利用に関する市民意識調査	—	34.1% (R5)	向上 (R14)

<B:取組指標>

施策の方向性		指標	計画策定時	現況値	目標値
1. 木の文化を知る・理解する	→	木の文化関係イベント数	—	30件 (R4)	増加(R14)
2. 木を仕事にする、日々のくらしに活用する	→	林業大学校、職人大学校の修了者数(累計)	林大94人/職大660人(R4)		林大150人/職大960人(R14)
		木に関わる産業による売上(収入)割合	—	2.2%(R3)*1	増加(R14)
3. 木をつかった建物や空間をまもる・つくる	→	指定文化財等件数	建造物223件/庭園12件(R4)		増加(R14)
		非住宅建築物の木造化率(延べ床面積ベース)	7.9%(R2)*2	13.2%(R4)*2	16%(R12)*4
		公共事業における木材使用量(年間)	512m3 (R3)*3	479m3 (R4)*3	700m3 (R7)*5
4. 森とまちの好循環をつくる	→	金沢産材供給量(年間)	6,657m3 (R3)*3	8,084m3 (R4)*3	6,950m3 (R13)*6
		森林整備面積(年間)	242ha/年 (R3)*3	218ha/年 (R4)*3	200ha/年 (R7)*5
5. 木の文化を担う主体がつながり、ともに推進していく	→	「木の文化都市・金沢」推進事業者数	9事業者 (R4)		80事業者 (R14)

※1 総務省・経済産業省所管の『経済センサス活動調査』の調査票情報を利用して独自に集計を行ったもの
 ※2 建築物着工統計調査の情報を利用して独自に集計を行ったもの
 ※3 金沢市森づくり市民会議資料より

※4 いしかわ森林・林業・木材産業振興ビジョン2021
 ※5 金沢の農業と森づくりプラン2025
 ※6 金沢の農業と森づくりプラン2025 および金沢市住生活基本計画(第4次)

1. 木の文化都市推進計画の進捗状況について

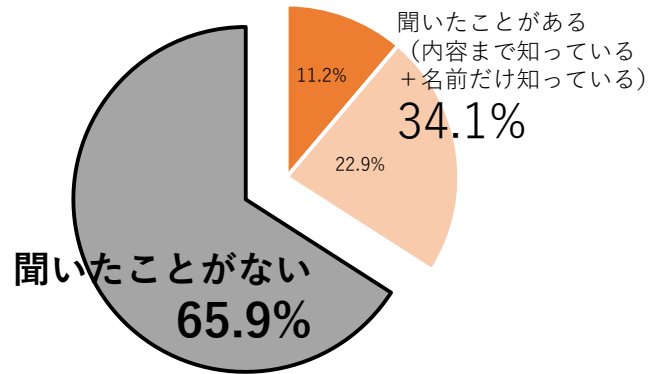
<市民アンケート実施結果概要>

【アンケート実施期間】 令和5年10月13日～令和5年10月27日
【対象者等】 回答者数179名/250名（71.6%）

成果指標

問1「木の文化都市・金沢」という言葉を聞いたことがありますか。

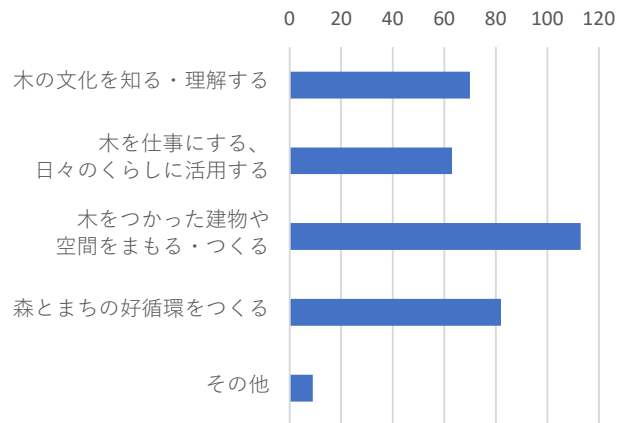
回答	人数	%
聞いたことがある (内容まで知っている)	20	11.2
聞いたことがある (名前だけ知っている)	41	22.9
聞いたことがない	118	65.9



→認知度は35%程度で、一般に知られているとは言えない

問9 木の文化都市金沢を実現するために特に重要な取り組みはどれだと思いますか。(複数選択可)

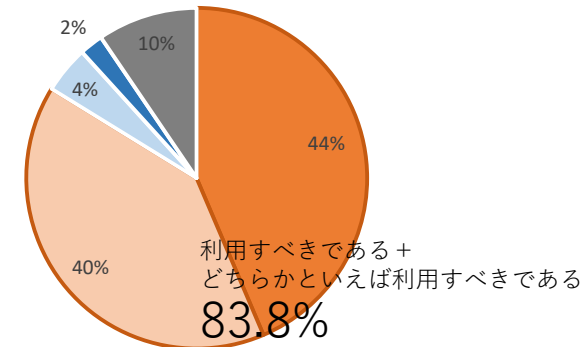
取組	人数	%
木の文化を知る・理解する	70	39.1
木を仕事にする、日々の暮らしに活用する	63	35.2
木をつかった建物や空間をまもる・つくる	113	63.1
森とまちの好循環をつくる	82	45.8
その他	9	5.0



→建物やまちなみへの木材利用の期待が大きい

問11 様々な建物や製品に木材を利用すべきだと思いますか。あるいは利用すべきではないと思いますか。

回答	人数	%
利用すべきである	78	43.6
どちらかといえば利用すべきである	72	40.2
どちらかといえば利用すべきではない	8	4.5
あまり利用すべきではない	4	2.2
わからない	17	9.5



→木材利用について85%程度が肯定的

1. 木の文化都市推進計画の進捗状況について
2. 令和6年度事業について（木の文化都市関係事業）
3. 令和6年度の実施について（推進に向けた実施）

2. 令和6年度事業について（木の文化都市関係事業）

1. 「木の文化」を知る・理解する

(1) 木の文化について情報を発信する

(2) 木材や森林などに触れる機会を提供する

木育関係事業（木育イベント、木工作体験講座、児童の植林等の実施）

NPO等と連携し、児童・保護者らを対象にした木や森林に親しむ木育関係イベントを実施。
（木のモノづくり、木のおもちゃを使った遊び、自然散策体験イベント 等

⇒子供たちに、楽しみながら森に親しみ木材に触れる機会を提供

・金沢の木育・会場・三谷さとやま交流ひろば
秋のさとやまであそぼう!

当日は木のモノづくり体験とフランスの松の木の板をつかった積み木で楽しめます。子どももオトナも楽しめますので、親子で家族でご参加ください。
小さいお子様は保護者の方と一緒につくれば体験が可能なものもあります。つくってみよう～(≧▽≦)

2023
11.12日
1日のみ



・開催日 2023年 11月12日(日) 1日のみ
・会場 三谷さとやま交流広場 ふれあい交流ルーム(室内)
・時間 10時～16時まで※体験受付は15時まで
・予約不要、現金・PayPay使えます。

金沢市三谷さとやま交流広場利用促進事業

2023
**金沢の木育
クリスマス・ウィレブン**

水で遊ぶ、水でまなび、水であそぼう。木のモノづくりやゲームなど体験がいっぱい、クリスマス劇やクレーの演奏会。こどもは森の魔法ゲームの「できる森」が聖誕劇。金沢市民芸術村で木のこもあそびで森の森とつながろう! (木育文化都市)

こどものテーマは
森のとびらをあげよう!

開催日時 12/9(土)・10(日) 両日とも10:00～16:00
会場 金沢市民芸術村 ナパフォーミングスタジオ・アート工房
ミュージック工房

森の魔法ゲームは
森のびらもあける
イベントを
実施しています。

自分達の森もとのしるし
できる森

お問い合わせ 森の魔法ゲーム
金沢市市民芸術村 電話 076-228-2217 (9:00～17:00)



2. 令和6年度事業について（木の文化都市関係事業）

2.木を仕事にする、
日々の暮らしに活用する

(1) 木に関わり、仕事にする

(2) 木をつかった製品・工芸、技術を事業活動に取り入れる

(3) 木をつかった製品・工芸、技術を日々の暮らしに取り入れる

金沢産材商品化トライアル事業

今後、市営造林の売払い・主伐が進み、金沢産材の増産が見込まれる中、県内工場にて金沢産材を使用した住宅用建材（合板）を新たに開発する。

⇒住宅における金沢産材の使用率を高める



林福連携等推進事業

市営造林の伐採跡地の再造林を進めていくため、福祉施設と連携した苗木生産体制を構築し花粉発生源対策の苗生産を支援していく。

⇒林福連携による苗木の安定確保



2. 令和6年度事業について（木の文化都市関係事業）

3.木をつかった建物や空間を まもる・つくる

- (1) 木の文化をつたえる建築物や空間を継承する
- (2) 民間施設等での木の利用を促進する
- (3) 市の施設において積極的に木を利用する
- (4) 公園や街路などの公共空間に木を活かす

「旧森紙店」文化芸術的活用推進事業

金沢市指定保存建造物で、市街地に唯一残る石置板葺屋根の旧森紙店について「文化財的価値を活かした文化芸術的な活用」を図るため、保存修理工事のための保存活用計画や耐震補強計画を作成する。

⇒未活用の歴史的建造物の活用による魅力の発信



保存活用の方向性

文化財的価値を活かした文化芸術的な活用

保存活用のコンセプト

ー建築とアートをテーマにした交流施設ー

目指す姿

- 1 【文化財的価値】 金沢町家の保存・継承の場
- 2 【地域・来訪者】 誰もが立ち寄れる場
- 3 【文化芸術】 体験・活動・発表の場

2. 令和6年度事業について（木の文化都市関係事業）

3.木をつかった建物や空間を まもる・つくる

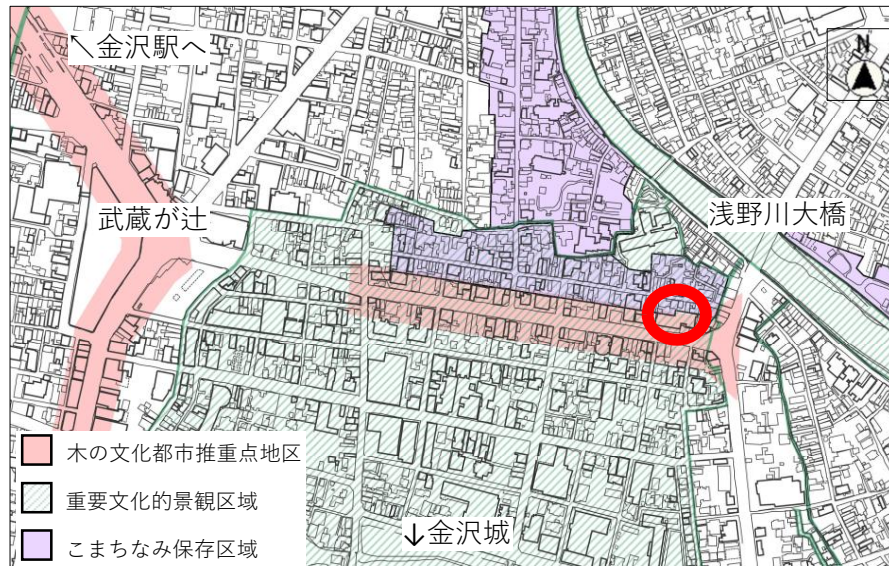
- (1) 木の文化をつたえる建築物や空間を継承する
- (2) 民間施設等での木の利用を促進する
- (3) 市の施設において積極的に木を利用する**
- (4) 公園や街路などの公共空間に木を活かす

木の文化都市・金沢を象徴する建築物の検討

旧菓子文化会館の木の文化都市・金沢を象徴する建築物の整備に向けて、隣接する泉鏡花記念館のリニューアルを含めた利活用策について検討する。

⇒木の文化都市を象徴し、感じられる場の検討

< 付近見取り図 >



< 整備のイメージ >

- ① 「木の文化都市・金沢」を象徴する建築物
- ② 泉鏡花記念館敷地との一体的な活用と泉鏡花記念館のリニューアルを併せて検討

2. 令和6年度事業について（木の文化都市関係事業）

3.木をつかった建物や空間を まもる・つくる

- (1) 木の文化をつたえる建築物や空間を継承する
- (2) 民間施設等での木の利用を促進する
- (3) 市の施設において積極的に木を利用する
- (4) 公園や街路などの公共空間に木を活かす

木が彩る歩行空間創出事業

金沢の玄関口である金沢駅から武蔵につながる金沢駅通り線の歩行空間に木を装う。令和6年度は金沢駅東広場内の総合交通案内板やバス停柱上部を金沢産材の木で彩る整備を実施する。

⇒駅に降り立った来街者を木の装飾でまちに誘い、木の文化都市を印象付ける



2. 令和6年度事業について（木の文化都市関係事業）

4. 森とまちの好循環をつくる

(1) まちとくらしを支える森を整備する

(2) 森の恵みを積極的に活用し、森を循環的に更新する

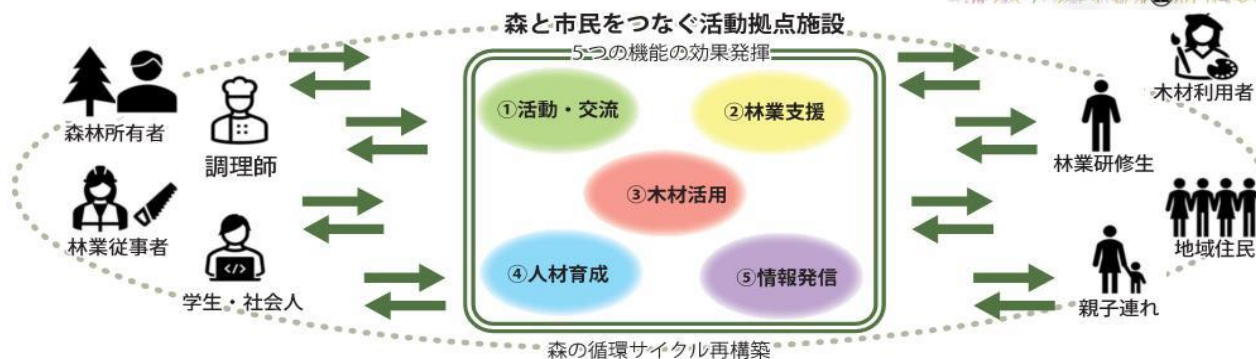
森と市民をつなぐ拠点施設整備

いままで森や木と直接関係がなかった「人」や「場所」をネットワークでつなぎ、林業支援や木材活用、人材育成など、「植える・育てる・伐る・使う」の森の循環サイクルを再構築するための拠点機能を持つ施設の創出に向け、実施設計を行う。

⇒施設を拠点としたネットワークを構築し 森づくりを次世代へ創造的に継承



No.	野外活動フィールド名
①	栗崎やすらぎの林
②	金石・大野やすらぎの林
③	専光寺ふれあいの森
④	安原海岸ふれあいの森
⑤	金沢北の森
⑥	金沢宮野の森
⑦	金沢テクノの森
⑧	直江谷健康の森
⑨	医王の里オートキャンプ場
⑩	平栗いこいの森
⑪	上辰巳いたやの森
⑫	甥杉 金沢林業大学実習林
⑬	平町千本桜の里ほか



2. 令和6年度事業について（木の文化都市関係事業）

5.木の文化を担う主体がつながり、
ともに推進していく

(1) 木をめぐる関係者の連携を進める

(2) 産学官が連携し、木の文化の推進に取り組む

(3) 広く関係自治体と連携し木の文化を推進する

「木の文化都市」魅力発信連携事業

『木の文化都市推進事業者』として登録された事業者と市が連携し、木の文化にかかる取組をイベントでPRする。

⇒市民意識の醸成と普及啓発

<想定イベント>

①KANAZAWA SDGsフェスタ 11月実施予定

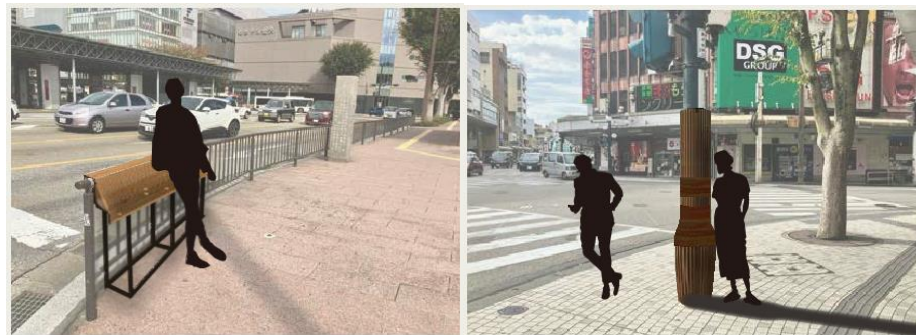
②金沢の木育クリスマスヴィレッジ 12月開催予定



「木の文化都市・金沢ミライまちづくり」 学生提案事業

令和6年度は新たに「公園トイレの木造化・木質化」をテーマに、市が提示する具体的な対象箇所の提案を募集し、令和5年度の最優秀作品について具現化する。

⇒木造・木質化の整備について学生による発想を取り入れる



ROS最優秀賞『テーマ：木を着せる』（金沢美術工芸大学 触覚まちあそび倶楽部）

1. 木の文化都市推進計画の進捗状況について
2. 令和6年度事業について（木の文化都市関係事業）
3. 令和6年度の実施について（推進に向けた実施）

3. 令和6年度の取組について（推進に向けた取組）

<令和5年第1回会議での主なご意見>

木の文化都市・金沢の将来像（ビジョン）について

- ・ 個別の取組も大切だが、一つ一つの活動だけでなく、全体としてのイメージが必要。
- ・ 全体像として、どのようなまちを目指しているのかメッセージを作るべきではないか。
- ・ ビジョンというものは、ある意味積み上げでは作れない、一種の空想とも言える。
- ・ 計画作成などとは別のチームで、戦略目標のような形で作るべきではないか。

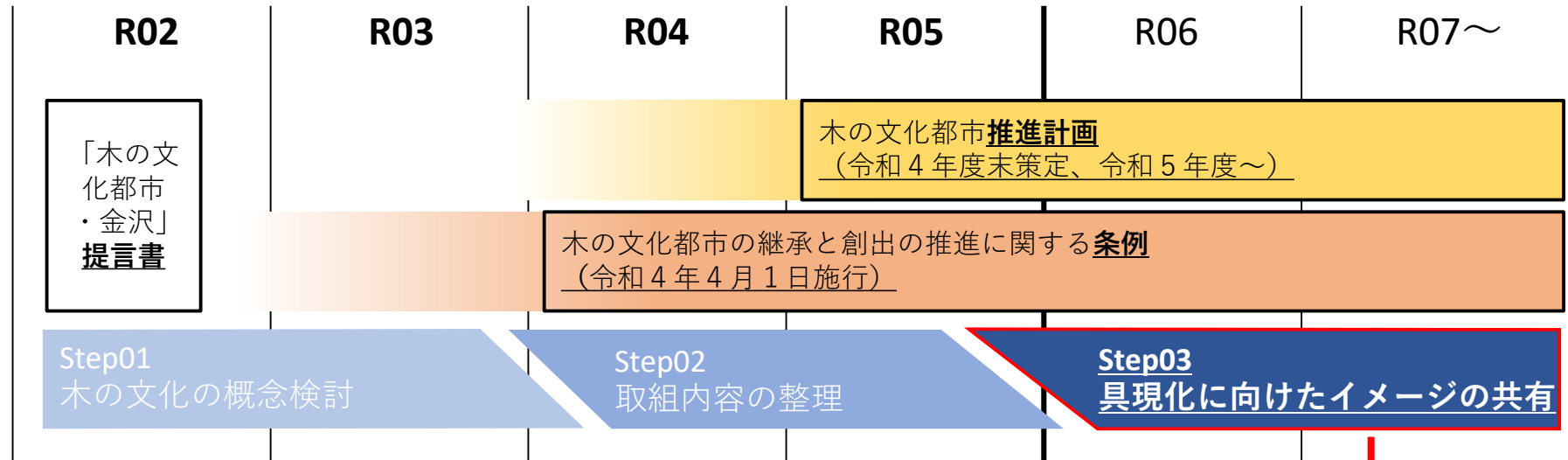
取組のデザインコントロールについて

- ・ 10年後の整備イメージと共に、全体のデザインを考えるべき。
- ・ 木を使うことは大切だが、バラバラになるのは避けたいため、統括する外部のディレクターのような立場が必要では。
- ・ 統一感を持って全体を見る美意識を持ったプロが、どのように進めるか、デザインをコントロールすべきだと思われる。

→中長期的な視点から木の文化都市の推進に向けた現状と、求められる取組について整理する。

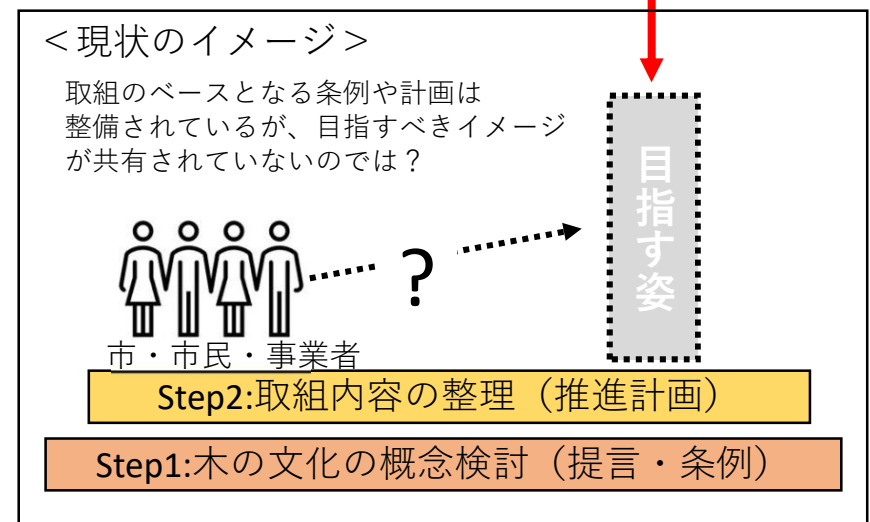
3. 令和6年度の取組について（推進に向けた取組）

<現状整理1：木の文化都市の取組経緯と今後望まれる取組>



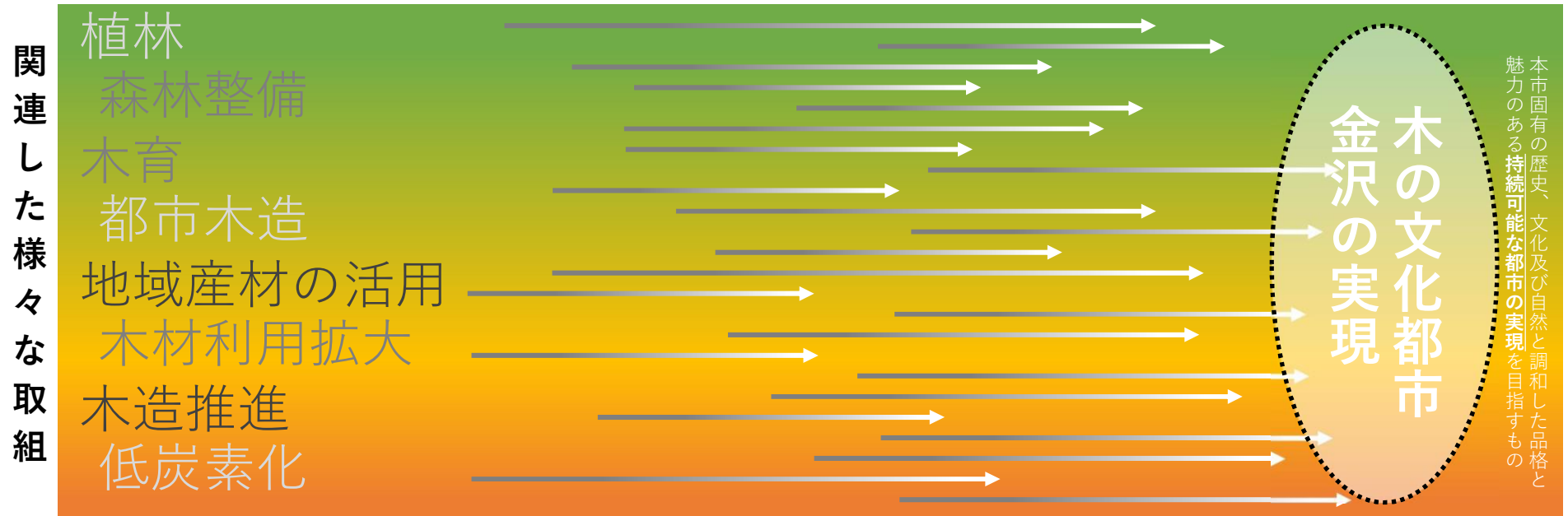
取組の拡大に向け、目指す姿の提示が求められている

- 令和4年度の条例制定・令和5年度の計画策定により方向性や取組の内容についておおむね整理済。
- 今後は取組主体の市、市民及び事業者にさらなる木の文化都市・金沢都市の認識を深め、取組の拡大が求められる。



3. 令和6年度の取組について（推進に向けた取組）

<現状整理2：既存の各種取組との関係>



- ✓ 木の文化都市のみの取組は限定的で、むしろ、従来の目的や目標を持つ、既存の多種多様な取組を木の文化都市として位置付けることが効果的といえる。
- ✓ それぞれの取組の主体が、本来の目的に加え、木の文化都市の意義を認識することで、木の文化都市の取組は顕在化し、推進されるものと考えられる。
- ✓ それぞれの取組が、木の文化都市・金沢の実現に繋がる認識を持ち、理解してもらうためには共通の目指すべきイメージの作成・機運醸成に向けた取組が求められる。

3. 令和6年度の取組について（推進に向けた取組）

< 推進に向けた令和6年度の具体的な取組 >

目的

市民・事業者・行政が、様々な取組が木の文化都市・金沢の実現に繋がる認識を持ち、また理解することで、木の文化都市の取組が様々な場面で感じられる状態を目指す

課題

▲内容がわかりにくい
✓木の文化都市の取組が広範に渡り、趣旨や目指す方向性がわかりづらい。

▲認知度が低い
✓木の文化都市の取組が知られていない。
✓取組の目指すイメージが共有されていない。

手法

**取組1 木の文化都市の目指す姿
“将来像（ビジョン）”を示す**

→取組の推進には、市民・事業者・市が共有できる目指すまちなみのイメージが必要

**取組2 木の文化都市の取組を示す
“ロゴマーク”を作成する**

→多様な取組を、一目で市民・事業者・市が認識できるロゴマークが有効

事例等

東京・表参道



高知・はりまや橋



→木の文化都市整備検討会による検討
+ 市民・学生・事業者ら多様な意見の反映

→金沢美術工芸大学との連携により作成
+ 美大OBらによる提案を予定

3. 令和6年度の取組について（推進に向けた取組）

< 推進に向けた体制づくりについて >

金沢会議

+ 推進アドバイザー

- ・ 取組全体について検討
- ・ 計画などの大きな方針についてコントロールする。

新設（案）

木の文化都市 整備検討会

メンバー

宮下会長
腰原委員
林野委員

- ・ 木の文化都市の具現化に向けた作業部会
- ・ 主に建築・まちなみについて検討
- ・ 整備のイメージの検討
- ・ 具体の整備における木材利用等についての助言
- ・ オンライン会議を活用

目指す将来像の
検討・提言

具体的整備への
指導・助言

①木の文化都市の**将来像（ビジョン）**検討（令和6年度）



整備検討会による議論

- ✓ 目指す姿をパースで表現
- ✓ 市民・事業者・市が共有できる
- ✓ 重点区域で箇所を選定

多様な意見の反映

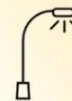


- ✓ 市民・学生・事業者・市関係課
- ✓ ワークショップ等による意見抽出

②金沢市の実施する**整備**についての助言（令和6年度～）



整備A



整備B



整備C